

おしりふきを介した手指の微生物汚染調査

著者	三浦 真希子, 澤村 暢, 森松 伸一, 國崎 大恩, 坂本 秀生
雑誌名	神戸常盤大学紀要. 別冊
号	12
ページ	34-34
発行年	2018-10-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1492/00001017/

おしりふきを介した手指の微生物汚染調査

三浦真希子¹⁾

澤村 暢¹⁾ 森松伸一²⁾ 國崎大恩³⁾ 坂本秀生¹⁾

【背景】現在、保育施設における使用済みオムツの処理方法については国や自治体で明確な規定はない。不衛生な使用済みオムツを家庭に持ち帰る場合、病原微生物による感染拡大のリスクが高まることが予測される。今回、我々は不衛生な環境を生み出す引き金となり得るお尻ふきに着目し、ウェットティッシュの使用枚数と手指汚染の関係について調査したので報告する。

【活動内容】McFarland0.5 に調整した大腸菌の菌液 400 μ L を普通寒天培地に塗布したものをお尻の代用とした。使い捨て手袋を装着した指にウェットティッシュ（2 枚、4 枚、6 枚、8 枚）を巻き付けた状態でお尻を拭いた後、指を DHL 寒天培地に軽く押し付け、35℃一晩好気培養しコロニーの発育の有無を観察した。成人男女 20 名を対象に実施したところ、2 枚: 100%、4 枚: 70%、6 枚: 35%、8 枚: 10%でコロニーの発育が認められた。

【結果・考察】ウェットティッシュを複数枚重ねて使用しても、高い確率で手指が汚染されていることが示唆された。本研究は、本学の「地域子育てプラットホームの構築を通じた All-Win プラン」が、私立ブランディング事業に採択されたことを受け、子育て支援の一環として実施した。今回の結果を踏まえ、今後は保育施設におけるオムツ処理状況のアンケート調査及び、手指・環境の汚染状況を調査し、感染拡大防止につながるオムツ処理方法を検討する予定である。

1) 保健科学部医療検査学科 2) 保健科学部看護学科 3) 教育学部こども教育学科